

「次世代エース放談」

今池歴

だいたい

10年の

新鋭いきいき語る！

今池まつりの次代を背負って立つ顔ぶれが、まつりへの情熱、街への想いをストリートに表現。この若き精鋭たちがきつと、今池の未来を切り拓く…!!

今池プロレスのコミッショナーとして去年から挨拶もしています。僕はリング上公開結婚式も挙げていて縁がありますね。偶然の流れで今池に来ましたが、**下町感や店同士のつながり**は働いてみて感じるころ。もう骨を埋める覚悟です。



堀川証司  
(かっぱの茶の間)  
今池歴9年

開店当初は街に溶けこめるのか違和感があったけど、「十分、今池っぽい」と言われるようになり、**酔っぱらいと音楽の神様**っているのかなど。まつりはお客様への感謝祭だけど、僕らは文化祭みたいにソワソワしちゃうんですね(笑)。



野村俊隆  
(valentinedrive)  
今池歴9年

今池は居心地が良く、横のつながりも感じて、すんなり馴染めました。**「もっと音からおるだろ」と**言われるほど(笑)。まつりを初体験の年、店の真ん前ではライブ、横ではプロレスをやってて驚き、気づけば「何かやれることないですか!」と飛び込んでました。



武岡竜也  
(チェッカー)  
今池歴5年

今池交差点りそ前は約10軒の飲食店とライブが一体となるので、各店に決まり事や真剣さを伝えながら進めています。**運営側は「お互いがうまくいきますように」と**願っている。時間をかけて作ってきたまつりを、みんな大事に思っているんです。



家田澄  
(The Vineyard Cafe)  
今池歴11年半

今池ランドの担当です。**ガツガツするのは今池らしくないので、音楽とともにユルくやりますね。**まつりに関わっていると、このために一年を過ごしているよう。商店街の人たちの熱量が凄く、何か月も余韻を引きずる(笑)。経験したことない感覚です。



常川睦  
(申揚げばかたれ家)  
今池歴8年

今池商店街連合会会長 森信仁

北エリアでは16の蔵元を集めた「酒蔵街道」を本格スタートします。一方でポルダリングもあり、子どもも大人も楽しめるよう盛り上げたい。**今池は人や生活が交差する街。**だから不思議と、地元じゃなくても地元感があるんです。



吉田寛章  
(スモールバーMOSH)  
今池歴14年

つるのりバンドでは参加してきたんですけど、**運営側には初参戦。**PAのない生音の十六会場を担当するので、当日どうなるか……。まつりでは今までカラオケ大会やライブで楽しんできたし、変わらない気持ちでいきたいです。



篠田味果  
(Music Cafe&Bar つるのり)  
今池歴10年

今池には何代目という人もいれば新しく来た人もいるけど、**お互い店を行き来したり、交流が盛ん。**まつりには商店街が丸丸と向かうし、上の世代の人たちは僕らが意見を出せば、可能性を見出し、背中を押してくれるんです。



上野トモユキ  
(喫茶あらたと)  
今池歴20年

ご挨拶

「いきいき今池お祭り」は平成元年に始まり、おかげさまで、今年で30周年を迎えます。当時、日本経済はバブルの真只中であり、いきいきとした今池はバブルの真只中にあり、先輩方が始められました。当初は一週間、毎日行われたそうです。この度、30周年を一つの区切りとして、ここに記念すべき冊子を発行することが出来ましたことは、私共、大変に嬉しく存じます。これもひとえに、お客様はじめ関係者の方々のご支援があったこそと、心より感謝申し上げる次第でございます。



左から平井修三さん、阪本光弘さん、志水紀彦さん

阪本 「昭和30年頃には発展会が結成されますが、まだ北・東南・西南と分かれていました。それが昭和40年頃に振興組合となり、桜通線が開業した平成元年、3つ一緒になった商店街連合会が結成されます。初代会長は森さん。今の森信仁会長のお父様ですね」

志水 「商店街を一本にまとめ、大々的に祭りをやろうと言いだしたのは、名大三羽鳥の三嶋くん(元・六文銭)、竹内くん(元・ウニタ書店)、倉本くん(名古屋シネマテーク)でした。名古屋大学出身の3人が働きかけ、連合会発足と今池まつり誕生につながっていくんです。思えば今池には河合塾を含め学校が多く、文化人の出入りも頻繁だった。それが、いわゆる下町とは違う雰囲気形成していったんだと思います」

阪本 「エリートさんが多かったんだよね」

志水 「しっかりと教育を受けた人が多く、だから今池では金儲けだけの人は通用しない」

平井 「「風紀があまり…」と言われた時期もありましたけど、今は非常に落ち着いています。今池駅は好立地なのでマンションなど増えるかもしれませんね」

志水 「そんな中、栄などと同じことをやってちゃダメで、独自のことをやらないと……」

阪本 「この先も50年、100年つづく街でありたいですからね」



「大センパイ鼎談」  
今池を知り尽くした  
男たちの声を聞け!

戦前に生まれ、「今池まつり」以前の街を知る平井修三さん、阪本光弘さん、志水紀彦さん。大先輩お三方に、終戦直後から現在までの今池を振り返っていただきました。

阪本 「私と平井さんは、学年は違うけど昭和7年生まれ。私は昭和23年に東区筒井町から今池へ移ってきました。濱金の子と一緒に東海中学に通っていて。当時は西南地区に闇市があって、バラックで違法の酒が売られていましたね」

平井 「この闇市が飲食店の増える土壌になっていくわけです。また、今池一大久手を走っていた市電が八事までのび、住宅地から人の流れが生まれました。地の利を得た今池は、当時の名駅西と肩を並べるほど賑わったんですよ」

志水 「私は昭和15年生まれで、小さい頃、平井さんの家が営む中屋パンに買いに行っていました。18歳で修行のため上京したんですが、母が急逝して22歳で家業のうどん屋(現・大盛屋)を継ぐことに。今のオリエンタルクリックの場所に千種郵便局があった頃。ガスビルや今池ビル、新今池ビルが建っていた様子は印象深いですね」

平井 「中屋も昭和40年にはビルにしました」

阪本 「うちは昭和48年。『男の館』というメンズショップばかり入ったビルだね。今池にしてはモダンだったかな」

志水 「男物だけ扱う発想は早かったですよね。その昔は映画館が7軒あり、ポーリング場も名古屋でいちばん早くできた。他にスケートリンクやローラースケート場もあって、それがみんな小さいという(笑)」

阪本 「3軒ぐらいあったキャバレーも早かったでしょう?」

志水 「ピザ屋もいちばん早かったですよ。早く閉められたけど(笑)。演芸場もあったし、今池は新しいことが好きな街なんです」

平井 「そしてその発展には市電、そして地下鉄東山線・桜通線が大きく関わり、常に交通網に支えられてきたんです」

